

魅力ある会社づくり

経営者は語る

当社は家電や自動車製品、ペットボトルなどの廃プラスチックを再生材にする工程のうち、粉碎、洗浄、脱水、乾燥などの中間工程を担う機械の開発、設計、製造、販売を行っています。メーカー機能として粉砕機を中心とした装置を単体で販売するとともに、機械を複合的に並べて一つのリサイクルプラントとしてパッケージ化してお客さまにご提供しています。今は売り上げの7割近くがこのプラント機能になっています。

企業ブランド向上策として昨年、SDGs事業部を立ち上げました。当社の存在理念は「マシントクノロジーで地球を豊かにする」で啓蒙活動により人の意識を高めようとし、主に五つの施策を進めています。

一つはオープンファクトリーです。一般の方を工場に招いてプラスチックのキャップを目の前で粉砕して射出成形機でコマやカラビナ、プレスレットにアップサイクルする取り組みを行っています。

二つ目の教育機関との連携では、保育園や小学校、大学とペットボトルのキャップの回収ボ

管理職は語る

当社はさく井工事や井戸メンテナンス、地下水関連設備の工事などを手がけています。創業114年で社員数は約300名、事業所は仙台から沖縄まで全国各地に展開し、海外にはネパール現地法人も設立しています。当社の究極の目的は「社員とその家族の幸福」です。「ヒト・モノ・カネ」ではなく「ヒト・ヒト・ヒト」という考え方を経営の根幹に据えています。人を思いやり、人に寄り添い、人に優しく、人を敬い、人を大切にすることを目指し、「誰一人取り残さない」を実践しています。

建設業界は技能者不足が課題です。埼玉県でも技術者は増加傾向ですが技能者は今後減少すると予測されています。当社も10年後の現場人員確保に不安の声があり、建設業の枠を超えて「人の確保」以上に「人を大切にする」ことに注力しています。この背景には、過去の厳しい経営経験があります。

約30年前、当社は売上高239億円、社員5355名でしたが、公共事業への依存体質から業績が悪化し、2016年には「底」を経験しました。人員削減や事業所閉鎖を余儀なくされ、退職者が相次ぎました。その反省から人を大切にすることを「ヒト・ヒト」という理念のもと、ヒトこそがモノやカネを生み価値を創造する存在であるという考え方を貫いています。

長い歴史で培った「決してあきらめない」DNAは当社の強みですが、過去にはトップダウンが行き過ぎ中堅や若手が主体的に動けない課題がありました。現在は社員の心理的安全性

日本シーム 社長 木口 達也氏



ツクスを寄贈し、回収から再生までの過程を学ぶ体験型プログラムを通じて若い世代の環境意識向上に貢献しています。

三つ目は国際フォーラムの企画です。浜松市でリサイクルフォーラムを開きます。環境先進国である欧州からスピーカーを招いて、日本の有識者とともに今後の日本のサーキュラーエコノミーをどう広げていくかを話し合います。

四つ目はコラム・メルマガジンの発行です。文章を書くの

が得意な社員が月に一回、今の環境の最前線の情報を伝えていきます。約1万件を送り高い開封率を誇っています。

五つ目はYouTubeチャンネルで15年ほど前からやっています。社員が分かりやすく楽しく盛り上げて再生回数を伸ばしています。

「100億宣言」によるブランド向上では、2月に経済産業省中小企業庁が募集するプロジェクトに参加し、中小企業成長加速化補助金も採択されまし

成長へ目標高く「100億宣言」

た。宣言により目標を高くして、成長を遂げるために緊張感を持つて取り組んでいます。

売り上げを伸ばすにはインフラ投資も欠かせません。廃プラスチックの大規模なテストセンターの建設を計画しています。自社製品のテストのほか、欧州など質の高い企業から機械設備を買い入れて、大きなマテリアリサイクル・テストセンターを作る予定です。大手企業との連携では、豊田通商と三重県東員町に「PLASTIC Lab」(プラスチック・ラボ)を構えました。

関係の質の向上として週一回、月曜日に全体朝礼を行っています。席はくじ引きで各テーブルに座ります。まず先週起こった楽しかったことを4人の席で1人1分計4分話し合う「ハッピーシェア」を行います。70人弱の会社ですが、部門間のセクショナリズムが芽生える恐れがあるので、さまざまな部署が

不確定要素を集まって、良い状態を目指します。

常に変化し、進化する。このことを大切にして魅力ある企業づくりと企業ブランドの向上を目指します。

【企業データ】

①1979年②8304万円③プラスチックリサイクル機械の開発設計・製造、販売の埼玉県川口市安行北谷655048・208・7700

日さく 総務部人事課長 杉山 りえか氏



減や事業所閉鎖を余儀なくされ、退職者が相次ぎました。その反省から人を大切にすることを「ヒト・ヒト」という理念のもと、ヒトこそがモノやカネを生み価値を創造する存在であるという考え方を貫いています。

長い歴史で培った「決してあきらめない」DNAは当社の強みですが、過去にはトップダウンが行き過ぎ中堅や若手が主体的に動けない課題がありました。現在は社員の心理的安全性

を守る環境づくりに努め自由な意見を出せる風土へ改善しました。

採用活動では新卒採用において厳しい状態が続いていますが、毎年約10人の新入社員が入社しています。ミスマッチ防止のため、インターンシップ(就業体験)や内定者研修で必ず現場を体験させ、リアルな職場理解を重視しています。若年層が求める「成長できる環境」や「職場の雰囲気」を大切に、年収面も含めた待遇改善にも取り組んでいます。

人財育成で未来を拓く

り組んでいます。

シルバー人材の活躍にも力を入れ、65歳以上の社員が25人入籍しています。定年は70歳に延長しており、人生100年時代に対応しています。高齢社員の健康管理のため「高齢者体力測定マニュアル」を策定し、安全に働ける環境づくりを進めています。

女性社員は92人、うち女性技術者は18人在籍しています。特に大宮事務所の地質調査部では29人中14人が女性で、うち12人が技術者です。女性技術者や事務職の意見交換会を定期開催し、女性が活躍できる会社づくりを推進しています。外国人社員も増加しており、現在は技人国粋社員10人、技能実習生9人が在籍しています。インドネシア人技術者がベトナムの国際大会で最優秀口頭発表賞を受賞するなど、国際的な成果も生まれています。

【企業データ】

①1968年②1億円③さく井工事・特殊土木工事・地質調査など④さいたま市大宮区桜木町4の199の3⑤048・644・39911

毎年実施している社内満足度アンケートでは、「当社で働いてい

「ヒト・ヒト・ヒト」の経営哲学

- 企業データ
- ①設立年
- ②資本金
- ③職種・事業内容
- ④本社所在地
- ⑤電話

井戸掘削・地質調査・防災工事のプロフェッショナル

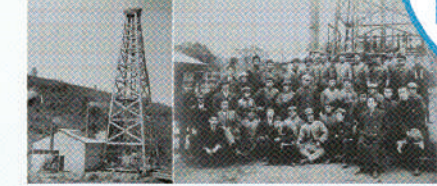
「ヒトからヒトへ、すべてのヒトのために」

選ばれて114年、私たちは地域・社会のために貢献し続けます。



となりの日さく

明治45年の創立以来地下水と地盤に想いをこめて、社会課題の解決に取り組んでいきます。



水とともに歩み続ける。日さくの技術



防災工事・調査
特殊土木工事・地質調査

水道インフラ
さく井工事

防災井戸
井戸用設備製造・販売

国際支援
海外事業

社会資本の整備
地質調査・建設コンサルタント

安全な水供給
井戸メンテナンス

地中熱の利用
地下水関連設備工事

未来のインフラ
技術開発

[illegible]